本願寺當跡六谷城市別院

〜三日・修正会

四日・如信上人御祥月御命日

一日・闡如上人御逮夜・常永代経 (午後二時)

十三日・闡如上人御命日 同朋の会例会

(午前八時)

大阪教区第七組

教應寺住職

(午後二時)

· 厳如上人御祥月御命日

十五日

九日 (午前十時)

覚如上人御祥月御命日

宗祖聖人御逮夜 (午後二時)

二十七日

二十四日・正信偈書写の会 大阪教区第十三組

二十五日·法然上人御祥月御命日

宗祖聖人御命日 (午前八時)

八日

お願

(午前八時)

列座 兼会計 **山** 

出原 大乗

記 座 堀河 小坂 実誓 昌子

墓地職員 墓地職員 山名 矢裂 隆司 彰英

今月の天満別院伝道掲示

謹 賀新年

1 一生を盡っ

0 から

私自身

藤代聡麿

週わ ね は ば 了 5

後

平成最後の年末年始を皆様 か。何事にも平成最後と言わか。何事にも平成最後と言わか。何事にも平成最後と言わちになります。5月に新しく元号が制定されると、次は○○最初の……となり、また特別だなという気持ちになると思います。 思います。 思います。 もかしふと考えてみると自ない日も一日の重みには変わると考えてみると自ると言わると言わると言わると言わると言わると言わると言います。 りありません また迎える今の重みには変わ なく過ごせ

霊園・墓石

T536-0001 本店 大阪市城東区古市1丁目23番20号

**〒**530−0042 大阪市北区天満橋1丁目2番18 TEL 06-6930-5075 0120-30-5075

FAX 06-6930-5078

代電 三 真宗大谷派

阪市北

区額東寺

天

满天

一满

1 别

八院

\_

表 者話 輪六 番五 武宫 江 信三 勝五

真宗大谷派天満別院輪番

武宮

信勝

年頭 御挨拶

h で新春の お慶びを申

上げます

もどうぞよろ お願い 丰 上 げ 重 す

引き締まる心境です。ただ砂初めて迎える大阪での元旦。 今ま で http://www.tenma-betsuin.jp

天満別院ホームページ

とはっきり きり区別されるようになった。江戸時代に入り正月は歳神をお迎えし、その年の豊作を祈る「姓と共にお盆は「盂蘭盆会」と融合し先祖供養の

つまり神様への感謝歳神さまを迎える際 もあった。いかない。 びのの

如来さまから励ましのに生きていきましょう いのち、どうぞ せていただいていましておめでとうござの言葉の響きを大事の言葉の響きを大事 **いのち**、どうぞかく迎えたこのる・大事にするら「おめでとう」 まで出来なったり、 読 逆

なる。

努力や苦労もあったが、なかった事が、出来るよ

出来るよう

ろ別 ただきますよう、の人々がお念仏ののお世話になりまり。 よろしく

> 年 0 ご挨拶

> > 謹

賀

新

天満別院責任役員

責任役員

けましておめでとうござい

めあ そ いう事実に直面する。 はとんどが達成されなかっの目標を立てる。だが年まであった。年の始めにあたの頃は、お正月を迎えるの に漢字が売う出来るようになったり、 それまで出来なか ネっ 末 た た っ た っ は

院議会議員

あろう。 ある。 京来ていた事が、 りに楽し 事である。 来ただけ が出来なくなる。 一日一日、今かれる今はどうで 知っ 7 まで ()

監

幸田

信夫

-島義郎

善昭

渡

ンチエ

この度、天満別院では「快慶の遺風」と題し、大阪市教育委員会・大阪密教を題し、大阪市教育委員会・大阪密教を題し、大阪市教育委員会・大阪密教を題し、大阪市教育委員会・大阪密教を題し、大阪市教育委員会・大阪密教と題し、大阪市教育委員会・大阪密教と題し、大阪市教育委員会・大阪密教と題し、大阪市教育委員会・大阪密教と題し、大阪市教育委員会・大阪密教と題し、大阪市教育委員会・大阪密教と題し、大阪市教育委員会・大阪密教と題し、大阪市教育委員会・大阪密教と題し、大阪市教育委員会・大阪密教と題し、大阪市教育委員会・大阪密教と題し、大阪市教育委員会・大阪密教と題に、大阪市教育委員会・大阪密教と題に、大阪市教育委員会・大阪密教と関係を表している。

して勤めておられました

法る12月7日(金)、真宗大谷派帯広別院様12名が団体参拝でお参りに来られました。職員挨拶の後、別院の由緒と沿革の説明があり、その後、展示している六字城のできる上卓と蓮台を見学されました。帯広が団体参拝でお参りに来られました。職員挨拶の後、別院の由緒と沿革の説明院は武宮御輪番が今から47年前に列座という。

**お参りくださいました 天満別院に** 

阿弥陀如来立像特別公開

輪番から「別院はどこどこまでも400年に亘って阿弥陀佛のみ教えに耳をそばだてて、聴聞されてきた念仏耳をそばだてて、聴聞されてきた念仏耳をそばだてて、聴聞されてきた念仏内さん、教如さんがご苦労され、先達如さん、教如さんがご苦労され、先達如さん、教如さんがご苦労され、先達がな建物である」とのご挨拶のあと、大切な建物である」とのご挨拶のあと、大切な建物である」とのご挨拶のあと、大切な建物である」とのご挨拶のあと、大切な建物である」とのご挨拶のあと、大切な建物である」とのご挨拶のあと、大切な建物である」とのご挨拶のあと、大切な建物である」とのご覧を構成している。 大満別院を知ってもらる。今回の特別公開を機場分で別院の歴史が熱い基づき、詳細に阿弥陀の歴史が熱いをでき、詳細に阿弥陀のをがない。



御本尊を見られる参詣者の様子



解説中の天満別院本堂の様子

なかった漢字が読めるよう

小さな事であっても、

もに

おせちを

いただいております

迎えられた事

を家族皆で喜び感謝とと

信偈をあげております。

そして新年を

## お知らせ

## ◆修正会法要

がございます。 法要終了後、 一月一日~三日 ご家族揃って初参りに 輪番の年頭挨拶と法話 午前八時より

墓地の門の

別院へお参りください

開閉時間につい

月一日~三日まで

別院講堂前、または南側別院境内にご お願いいたします。お車でお越しの方 駐車いただきますようお願いいたしま ております。 午前六時半より午後五時までとなっ 道路上は駐車違反となりますので、 お墓参りは開門時間内に

# 新年互礼会につい

一月二十日(日)

時間 午後六時より

場所 太閤園淀川邸にて

壱萬弐阡圓也

たします。皆様多数のご参加をお待ち例年のごとく僧俗懇親の互礼会とい

## 定例法話 **〜音楽法話〜**

師

よる接待があります。 部の方々が前日より準備された鏡餅に のうえ御参拝ください。 皆様お誘い合わ

\*



# て

平成三十一年度

年回表

会費

しております

一月二十四日 午後一時三十分 大阪教区第十三組 分より 即念寺

洲﨑 善範 住職

法話終了後、 例年の如く門徒会婦人

\*

年 口 平成二十九年 平成二十五年

三回忌 十三回忌 七回忌

年回にあたる没年

(二十三回忌) 七回忌

平成十五年

平成九年 平成五年 平成七年

二十五回忌

(二十七回忌)

昭和五十八年 昭和四十五年

大正九年

れない場合もございます。 ましては、 二十三、二十七、三十 地域によってはお勤めさ 七回忌につき

までご連絡ください 願いいたします。ご相談等も寺務所し早めにご連絡いただきますようお年忌法要をお勤めになる際は、少

## 別院婦人部

天満別院門徒会 会長

善昭

日々の備え、気

気候の不順や災害も多く、

「災」でした。この字

昨年の漢字は

新年あ

とうござ

ます

新年

のご挨拶

天満別院院議会議員

まし

に生きていかなければならないのだろ

上げます。

である。だからこそ、一

ある。だからこそ、一日一日を大切命あるものの死亡率は百パーセント

ました。新しく武宮輪番が着任されたせていただき本当にうれしく思い夫妻にお越しいただきました。御遠特に昨年の報恩講には能慈院様ご 皆様方には、明けまして いただき心より御礼申し上げます。院・門徒会のために多大な御協力お迎えの事と存じます。旧年中は 7 つです まもなく一年となります。 門徒会のために多大な御協力をしえの事と存じます。旧年中は別 けましておめでとうございます。 お健やかに新たな年を つ 7 され 堂前

墓地委員会

委員長

新年を迎えさせていただきました。

修正会に初参りする事からはじまりますて、我が家の元旦は、天満別院の

その後、、大阪天満宮に参拝して帰

帰宅してからはお内仏に集まり正

ます。この新しい時代に期待を寄せて年は平成も終わり、新しい年号になり

年は平成も終わり、新しい年号になりえさせられる事が多くありました。今日々の備え、命の大切さなど改めて考

良き一

年でありますよう念じ申し上げます。

皆様にとりましても今年、

どうぞ今年もよろしくお願い申し

副会長

恥しい事ではない。うか。老いは確かに辛い事ではあるが、なにも若返りたいと思っているのだろ

謝の思いで過ごし 今を生きる一日一

していきたいもので一日を大切にし、感

ングのコマ

ヤ

ルばかり。

人はこん

日一生」という言葉があります。

門

徒

会

副会長 井上 信夫 義雄

副会長 計 傍島 西松 八十 -島義郎 恭子

会

会計監査 会計監查 幸田眞須美

長

幸田眞須美

副部長 傍島 恭子

副部長 綾子

副部長 村中 佐藤 怜子 紘子

和子

幸田 -島義郎 晴夫 康司

根本

卓

松垣

三十三回忌

(三十七回忌)

五十回忌

回忌

のこ

身に香気あるがごとし、のご和讃は『首楞嚴経』

これをすの「染香

をいただいて、その身を願作仏心と度出るお名号によって阿弥陀さまの功徳に身体が浸かっている人は、その称え

衆生心のお徳で荘厳されていることに

なはち名づけて香光荘厳とい

をも

とにしています。

染香人とは香りが身に染み込ん

人をい

います。

僧侶が普段身に

につけ

、る衣は、

朝晩毎日お香を焚きお勤

集て一は別広陀おおい別回な院く如り参 一回でも多くご近所、お友達とつはないかと期待しています。一別院の存在が少しでも広められ広く一般の方にも拝観が呼びか広く一般の方にも拝観が呼びか い別 発展と皆様のご健康を念じます。 آگ しくお願いいたします。 てて を でして下さい。みんなで別院を盛り が合ってゆったり心静かにひと時を が合ってゆったり心静かにひと時を が合ってゆったり心静かにひと時を が合ってゆったり心静かにひと時を が合ってゆったり心静かにひと時を が合ってゆったり心静かにひとでも が合ってゆったり心静かにひと時を が合ってゆったり心静かにひと時を が合ってゆったり心静かにひと時を がられたのでも がられたのでも がらってゆきたいと思います。 でも多くご近所、お友達とつれ立っ でも多くご近所、お友達とつれたので がられたのでも がらがも がらがらがも がらがらがも がらがも がらがも がらがらがも がらがらがも がらがも がらがらがらがも がらがらがらがも がらがらがらがも がらが 別院の益

### 0 生活

継者大谷暢裕夫妻をお迎えして(輪番す。昨年、別院の報恩講には、門首後歳を重ねる事により一年が早く感じま げましておめでとうございます。天満別院門徒会 婦人部 副部長

に参拝させ 一月には、 てもら い大谷祖廟、青蓮院山での御正忌報恩講 さんの

しつらえ采配で別院内が明るく

荘厳に執る

り行われました。

の解修 教えて下さっています。等で念仏を称えなさい ででである。 で行、学門に励まれ に絵画も拝見でき、 大悲恩徳を願って、 りました。 した。私達には、阿弥陀如来学門に励まれたことが改めて で得度され一生涯が 、どれだけの忍耐、れ一生涯が描かれ 「誰の上にも平 とやさし

自然と口ずさんでいました。 ほねをくだきても謝すべし 師主知識の恩徳も 如来大悲の恩徳は

私の日常は、健康で楽しく暮らせる日々を一番と考えて、その為にどる日々を一番と考えて、その為にどる日々を一番と考えて、その為にどが、家にこもってなくて、サークルが、家にこもってなくて、サークルが、家にこもってなくて、サークルが、家にこもってなくて、サークルが、家にこもってなくて、サークルが、家にこもってなくて、サークルが、家にこもってなくて、その為にどる日々を一番と考えて、その為にどる日々を一番と考えて、その為にどる日々を一番と考えて、その為にどる日々を一番と考えて、その為にどる日々で表していましていましていましていません。 います。 す 眠る時には、お内仏に向かって「今 日ありがとう」と手を合わせて

どうぞ今年もよろしく お願 V します。

### 正信偈書写の 会よ Ŋ

用あり議 用意ください。

ありますので筆、墨、硯は各自ります。書写用紙は別院で用意議室にて正信偈書写の会を行っ 自意っ一 でして階 ごてお会

# 仏前結婚式を勧めてくがあなたの子供さん、お孫さん だに

もかけ別 もご遠慮なくお申込みらかりでなく、ご門徒のけております。寺院関がには仏前結婚式を の関を くださ 方係随 々の時の人受 。挙達け



式ば付

するので、その匂いが衣服に染み込んます。あるいは、料理人は日々調理を衣からは絶えずお香の香りが漂ってい染み込んでいきます。そのため、その でいきます。 と呼びます。 衣や衣服にとどまらず、 をすることから、 となって行きます。 そのような香りや匂いは、 。そのため、 これを染香人 りが衣に

徳が度衆生心の徳ということです。

のように香気があることを香光荘厳と

「和讃のおはなし」

真宗大谷派

大鍵谷 役

『勢至讃

染香人のその身

i

は

これをすな

b

ち

了 づ

け 7

7

香光荘厳ともう

す

了

5

香気あ

るがごと

了

のです。 てい るいは称名となってあらわれるのです。 まずに私たちを自由自在に染めていく 功徳の香りであるお名号が、 阿弥陀さまの功徳です。 そして、香に染められていくことによっ ということでしょう。 ています。「染」は、 るお名号に染められることが、 いう臭いが消されていくのです。 ここでは、 私たちの迷いという臭い、 いでしょう。 阿弥陀さまの功徳の香 ※」は、他力の信心と称名 染香人を念仏者にたとえ つまり阿弥陀さまの そして「香」は お名号といっ 一日も休 信心あ りであ

るように、

いつも阿弥陀さまのお念仏

り、まさに身体を香りでお荘厳して

に染まった人は、

いつもその香りがあ

というのです。

るように、その身に香りが漂っていま

これをすなはち名づけて香光荘厳

(染香人の身体には、

まるで香気があ

的には、徳とは自利利他の徳であれた仏になるべき一切の徳です。 徳とは自利利他の徳であ 私たちの身にもたらさ 教学 り

あらわれてきて、

やがて念仏者とし

の生活の

人々を同じように

なるのです。

の生活態度が周りの

いことになる

のです

さい

がお荘厳としての相をあらわすのです。

「香光荘厳ともうす」とは、

良い香り

には形がありません。ですから「光」

いう形をつけることによって「香」

阿弥陀さまの功徳です。

しかし

香」

意味しています。

[味しています。先述の通り「香」は」功徳が相をもってあらわれたことを

つにすることによって、

阿弥陀さま

のものです。

しかしその別のものを

般的には「香」と「光」はまったく

香光荘厳の「香光」ですが

と